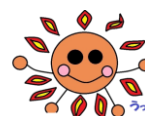




自ら輝きつつ
仲間を照らし
未来を創る
「太陽の子」

きらめく 簗木

令和6年3月22日 文責 校長 福田 啓子



令和6年度修了式(3月22日)

今週の簗木小学校は、6年生が卒業して人数が減った上に、閉校、引越しに向けてどんどん荷物や掲示物を整理しているため、学校が広く感じられました。そのような中、修了式を行いました。令和5年度は、新型コロナウイルスが5類に移行し、4年ぶりに制限のない教育活動を実施することができました。本校閉校の年に、保護者・地域の皆様にも何度も来校いただけたこと、多方面から講師の方を招いて授業が実施できたこと、子供たちが地域に出かけ体験活動を思う存分味わうことができたこと…。たくさんの思い出をつくることができ、本当によかったと思いました。

修了式では、学年の学びをしっかりと終えたこと、「自ら輝き、仲間を照らし、未来をつくろう」と頑張ってきたことを褒めるとともに「残心」という言葉を紹介しました。「残心」という言葉は、日本の武道において用いられる言葉で、技を決めた後も心身ともに油断をしない心構えのことです。茶道においても残心は重要視されています。「『やった、終わった』とやりっ放しやいい加減にするのではなく、自分がやったこと・頑張ったことに対して心を残して責任をもち静かに振り返りましょう、最後まで物や人に対して心を残しましょう」と結びました。春休みも浮つかず、新年度に向けて心・体・学びの構えをつくってほしいと思います。

保護者の皆様には、「閉校・統合」に向け、例年以上に御協力と御尽力を賜りました。本当にありがとうございました。また、お世話になりました。今年度を持って本校職員は簗木小学校はじめ、各地の任地へと異動します。名残は尽きませんが簗木小で過ごした日々ことは絶対忘れません。これまで本校並びに教職員に寄せられた御厚情に深く感謝しますとともに、皆様の今後の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げます。



転出職員

令和6年度
簗木小学校
勤務の職員

～引き続きよろしく
お願いします～